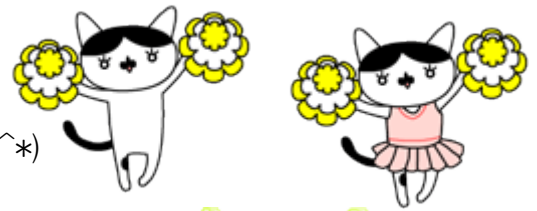
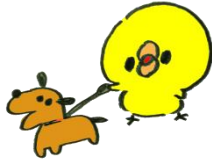




9月になりましたが、まだまだ暑い日が続きます。  
犬猫も家の中にも熱中症になります！  
人も涼しく、犬猫も涼しく気を付けて過ごしましょう(\*^-^\*)



熱中症対策をしよう！！

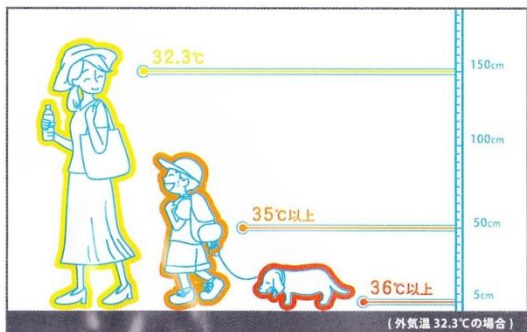


## 散歩時の注意点



### お散歩のススメ

#### 高さ別の気温



朝の涼しい時間帯と夕方の日が落ちてきてからお散歩がおすすめです。  
散歩前にアスファルトを触って確認しましょう！



芝生や土の上を歩くコースを選びましょう。  
地面からの照り返しなどの輻射熱に注意しましょう。



こまめな水分補給を心がけましょう。散歩後の熱くなったからだを冷やすケアも忘れずに。

気温だけではなく、湿度が高い日も注意しましょう！



## 熱中症の症状

### 初期症状

- パンティングしている。  
(ハアハアと激しく呼吸している)
- よだれが大量に出ている。
- 歯肉や舌、結膜などが充血、うっ血している。
- 頻脈(心拍数が増加している状態)を起こしている



### 重篤化した場合

- 虚脱(ぐったりとして意識がない)状態になる。
- 下痢・嘔吐、ふるえを起こす。
- 意識が消失する。
- けいれん発作が起こる。
- ARDS(肺が炎症を起こし呼吸が困難になる病気)



## 散歩の時にも熱中症対策を忘れずに！！

- 水
- タオル
- うちわ
- 冷却グッズ





## 予防と対策



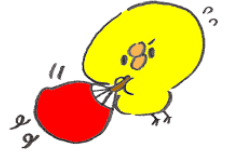
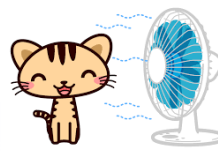
### 屋内

風通しを良くしておく。

ペットが自由に居場所を選択できるようにしておくことが重要！

暑い時期の室内温度は 26℃以下にする。

直接、日光が当たらないようにする。



### 屋外

こまめな給水を心がける。

時には体表に水道水をかけ流す。

風を送り気化熱を利用して、簡易的な体感冷却法を取り入れる。



### 車内

外気温が 25℃を越えるような環境下では  
締め切った車の中に残すことは避けましょう。

活動的な犬や興奮しやすい犬の場合には、  
さらに低い気温でも熱中症のリスクがあります。



## ⚠️ 特に注意が必要な犬種と猫種 ⚠️



### 短頭種

短頭種は気道が短く、呼吸による体温調節が  
苦手なため、熱中症に陥りやすい傾向があるの  
で注意が必要です。

※犬では、フレンチブルドッグ、パグ  
シーズーなど。

猫では、エキゾチックショートヘア、  
ペルシャ、ヒマラヤンなど。

### 肥満・高齢動物

肥満体型の場合、体内に熱がこもりやすく  
首のまわりの脂肪によって、呼吸機能が低下  
しやすくなるので、熱中症に陥りやすい傾向が  
あります。認知機能不全症候群に陥っている  
高齢動物（主に犬）は、体温上昇ならびに脱水症  
状を引き起こしやすく、熱中症に陥ってしまうこ  
ともあるので、非常に注意が必要です。

※呼吸状態の悪化を招きやすい循環器疾患や  
慢性呼吸器疾患などの病気を患っている場合も  
熱中症の注意が必要です。

## 応急処置



### すぐにやること

- ① 常温の水をかける。
- ② 水で濡らしたタオルなどで包む。
- ③ 涼しい場所で風を送る。

### 冷やす場所

頭部喉側から  
首(頸動脈)

脇の下

そけい部  
(後ろ足の付  
け根の内側)

